

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田南小学校	校長	石川 和明	生徒指導主事	松田 一斗
取組事例名	あいさつチャンピオン				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
挨拶委員を中心に、学校生活の充実と向上を図るための諸課題解決に向けて、児童自らが課題を発見し、解決する主体的な学びの推進。	進んで学ぶ子（主体性） 気づかいをする子（協調性・柔軟性） 認め合う子（多様性・共感性）



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
1. 挨拶に関する我が校の課題について、挨拶委員で協議 2. 協議によって出てきた課題の選定 「自分から挨拶できていないこと」が課題として挙がる。 3. 取組について協議 「あいさつチャンピオン」（10月、11月、1月）実施 ※レベル1 あいさつをしない。 レベル2 あいさつをされたら あいさつをする。 レベル3 自分から相手の目を見てあいさつする。 レベル4 自分から 立ち止まって相手の目を見て あいさつをする。 <内容> ①「自分から挨拶」をしている児童を教員が投票 ②票が入った児童に賞状 ③特に票が集まった児童を「あいさつチャンピオンとして表彰 4. 全校朝会で表彰する。	児童にめあてをもたせるために ・挨拶委員が「挨拶の良さ」や「よりよい挨拶」についてのスライドやポスターを作成。各学級で発表し、周知した。 児童の意欲を高めるために ・挨拶委員は、挨拶を高めるリーダーとしてどのような声かけや取り組みができるか協議した。 ① 登校班での班長による声掛けの実践 ② 挨拶運動の実施 の2点が案として挙がった。 ・挨拶週間中、朝の時間に挨拶委員で挨拶運動や教室掲示で挨拶の啓発。 ・各登校班の班長に声を掛け、啓発。 児童の頑張りを認め、価値付けるために ・投票が集まった児童には全校朝会で表彰し、各学級では、取り組んだ児童全てにミニ賞状をわたして価値付けや意欲付けを行った。



3 成果と課題

○成果について

あいさつアンケートについて、挨拶における児童の肯定的評価の割合は、月平均で70%台であることがあったが、「あいさつチャンピオン」を実施した月以降では、「挨拶における肯定的評価の割合」が学校平均10月84%、11月86%と取組による確かな成果が出ているため、児童への意欲付けとして有効であった。日常的な行動となるよう、取組を続けていく。

●課題について

あいさつチャンピオンの投票の対象者は、学校内の者であるため、教員や友達に対しての挨拶は増えているが、一方で学校外の地域の方への挨拶は積極的でない児童が多い。地域の方への挨拶につながる取組を加えて実践していく必要がある。